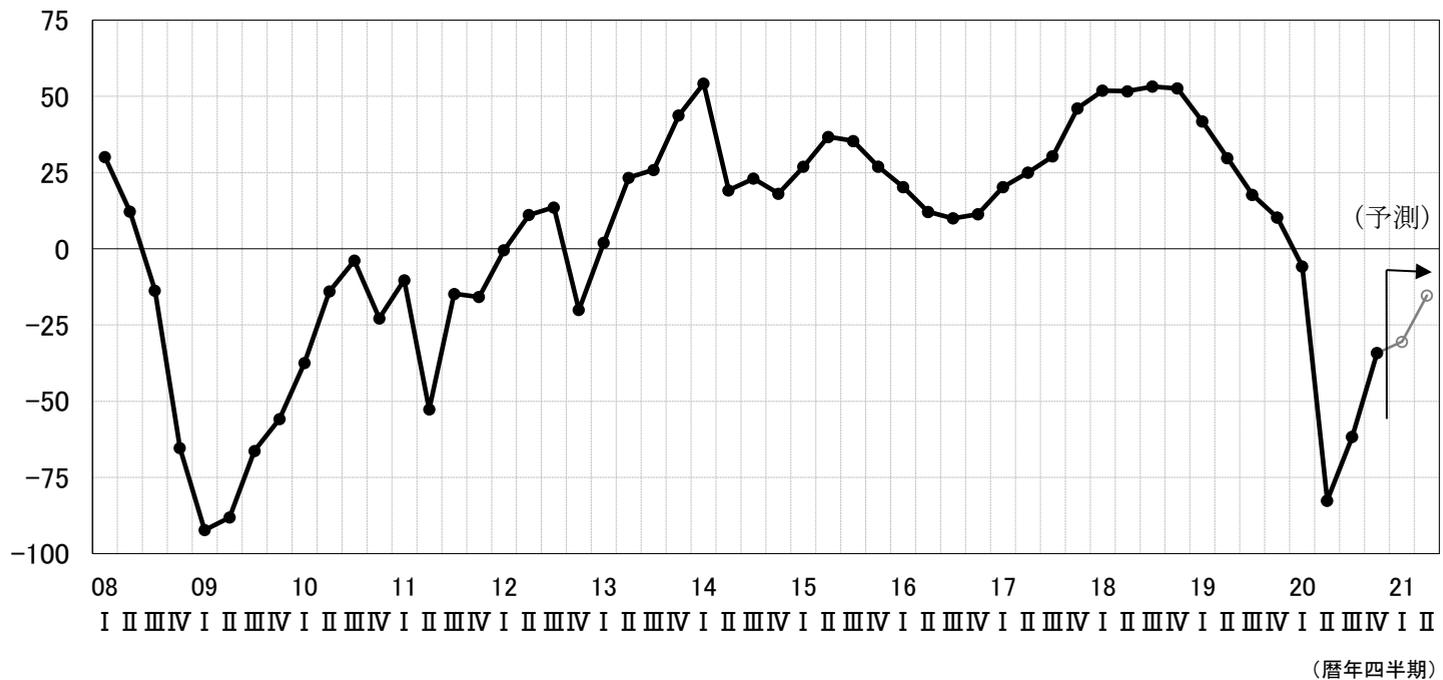


## 中部圏の景況感の現状（10～12月期）と見通し（4～6月期まで）

〔今回のポイント〕

### 中部圏の景況判断



- ▶ 10～12月期の中部圏の景況判断（「良い」－「悪い」社数構成比）は、低水準ながらも2期連続で改善し、▲34.2（前期比＋27.5ポイント）となった。D. I. の値は東日本大震災直後と同水準。前回予測は上回った。
- ▶ 項目別では、業績判断、設備投資計画判断、機械設備水準判断のいずれも2期連続で改善した。
- ▶ 業種別では、製造業と非製造業が2期連続で改善した一方で、建設業は3期連続の悪化となった。
- ▶ 景況判断の先行きについては、国内外で新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、経済活動への影響が懸念される一方で、足元では生産や輸出の持ち直しが継続していることなどから、来期以降の景況感は緩やかに改善するものと見られている。
- ▶ 為替相場については、「企業が前提とするレート」と、「妥当な水準」が共に円高方向に振れ、ギャップは前期に比べ、わずかに縮小した。
- ▶ 原油価格（通関CIF）については、「企業が前提とする価格」の平均が\$43.8と、前回調査（\$50.1）から下落した。
- ▶ わが国の景気の現状については、「大きく後退」、「後退」の割合が減少し、「緩やかに後退」、「概ね横ばい」、「緩やかに拡大」が増加した。

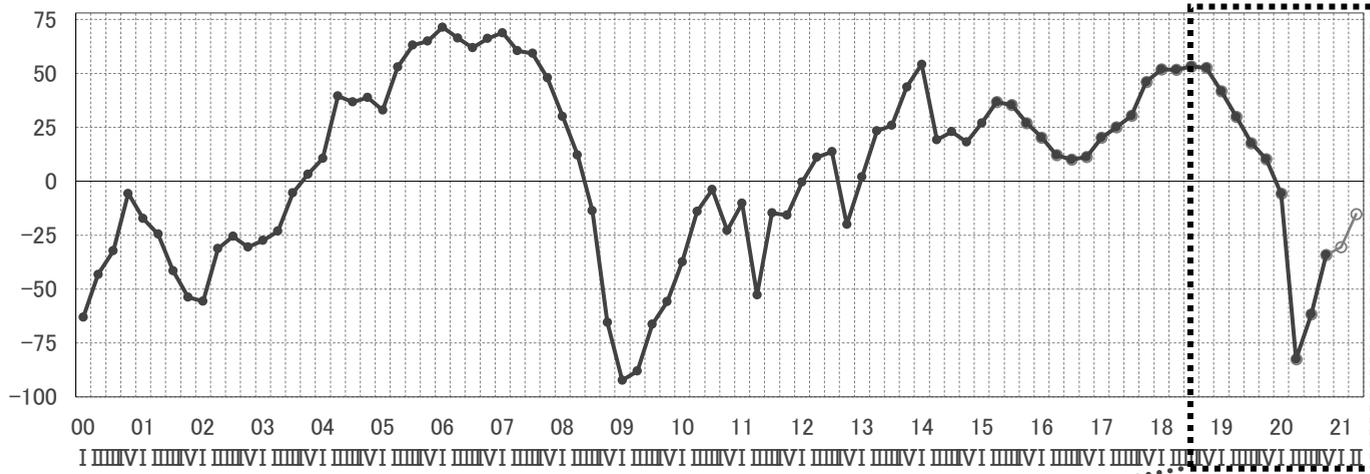
### 〔調査の概要〕

- ◎調査時期：2020年10月27日～11月20日
- ◎対象：法人会員代表者等
- ◎回答：237社（回答率：33.8%、対象702社）

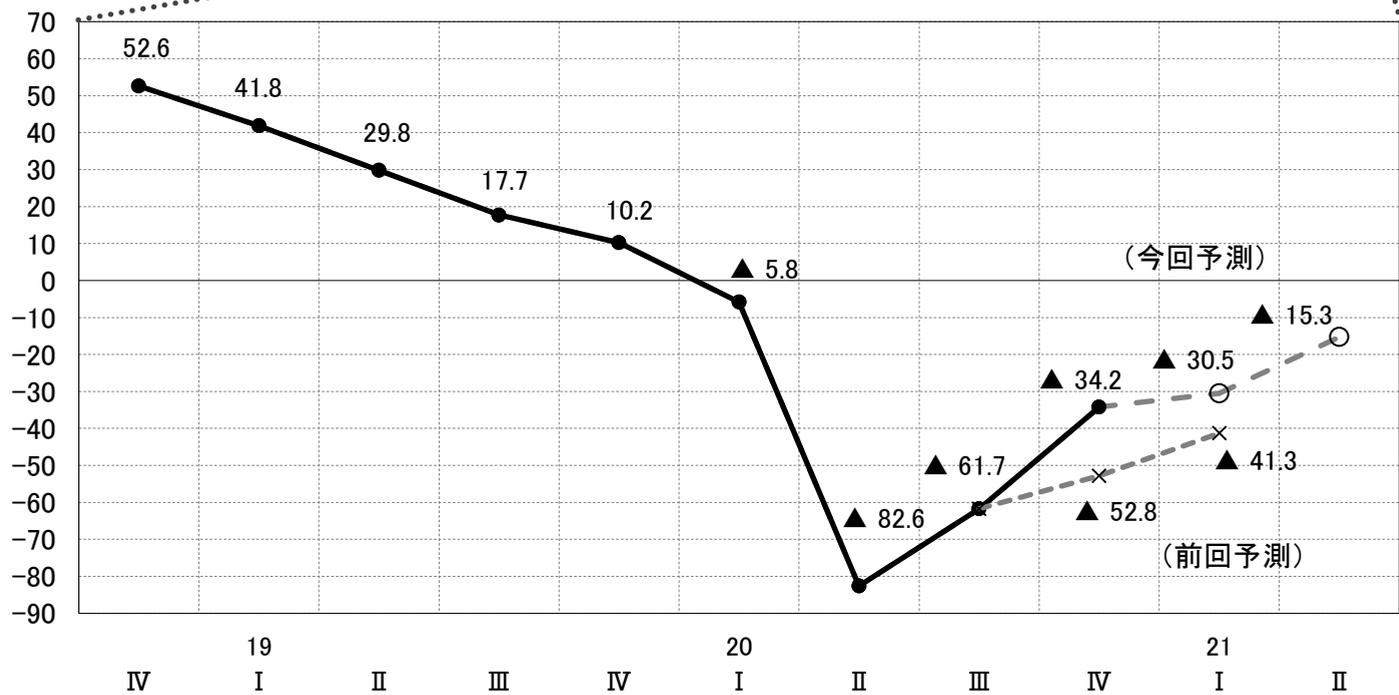
# 中部圏の景況感

## (1) 中部圏の景況判断

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



### 【最近の動き】



[現状] ▶ 中部圏の景況判断は、低水準ながらも2期連続で改善し、前回予測も上回った。D. I. 値は東日本大震災直後と同水準となった。

[今後] ▶ 来期以降は緩やかに改善するものと見られている。

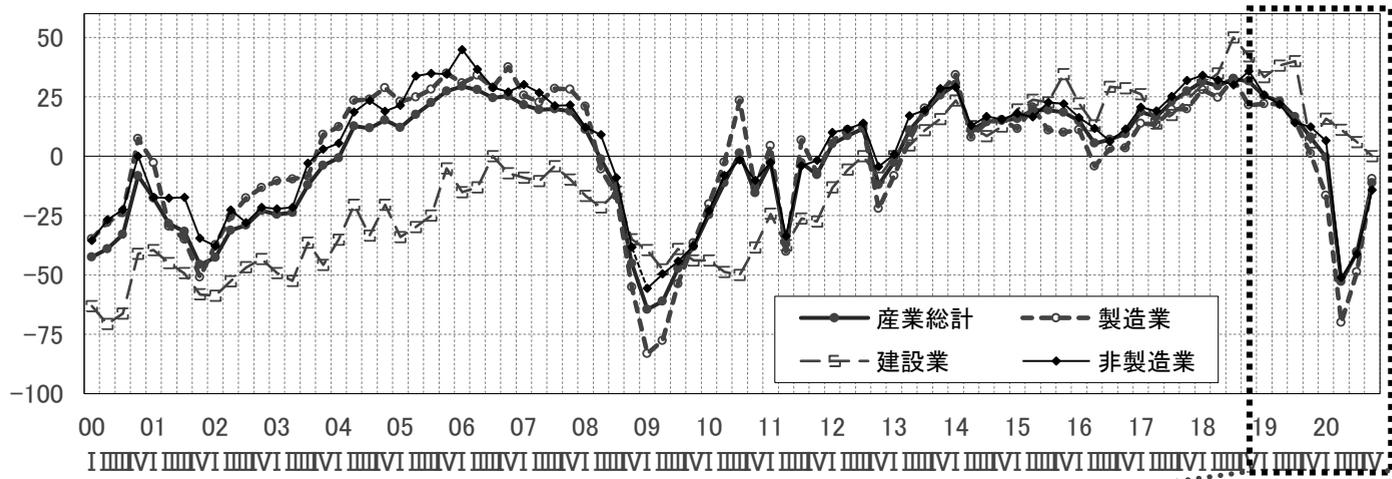
### 【景況判断(D. I. )の内訳】

	1 :悪い	2 :さほど良くない	3 :良い	D.I.(良い-悪い)
[9月]	62.1%	37.5%	0.4%	▲ 61.7
[今回]	36.8%	60.7%	2.6%	▲ 34.2

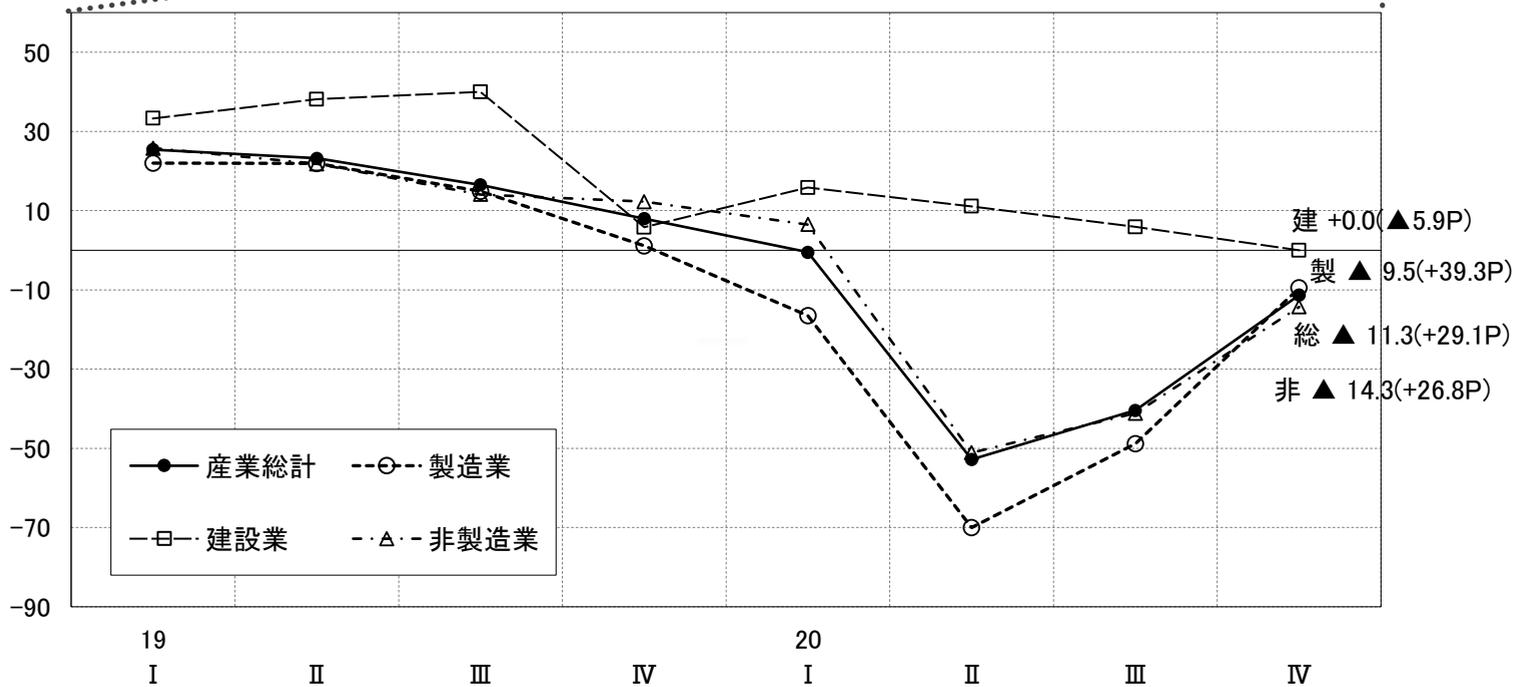
+ 27.5P

(2) 業績判断

[現況判断:「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



( )は前回差

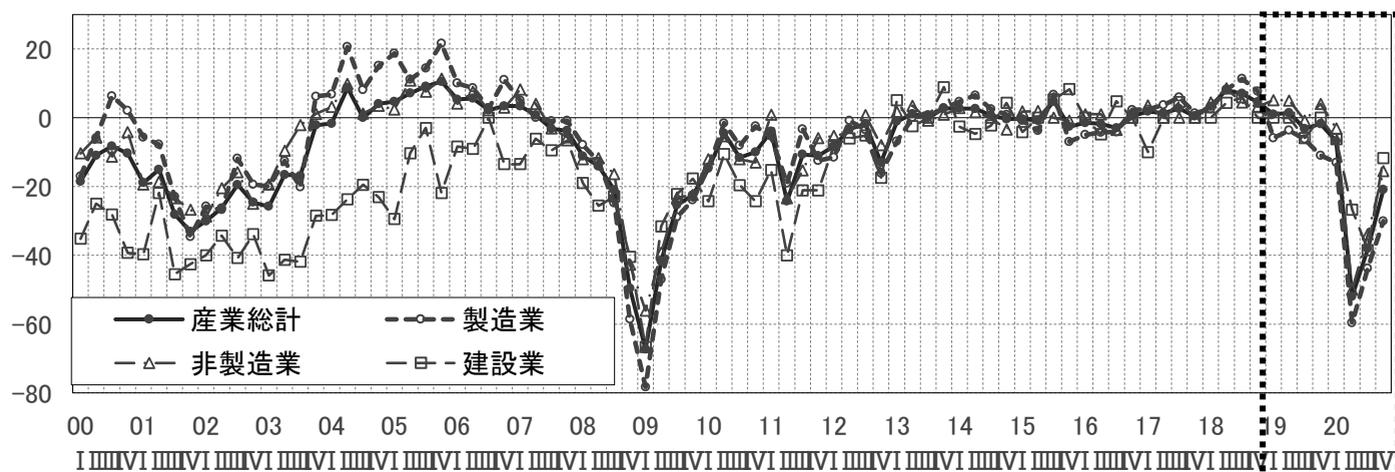
- ▶ 業績判断は、産業総計で2期連続の改善となった。
- ▶ 業種別では、製造業と非製造業が2期連続で改善した一方で、建設業は3期連続の悪化となった。

【業績判断(D. I.)の内訳】

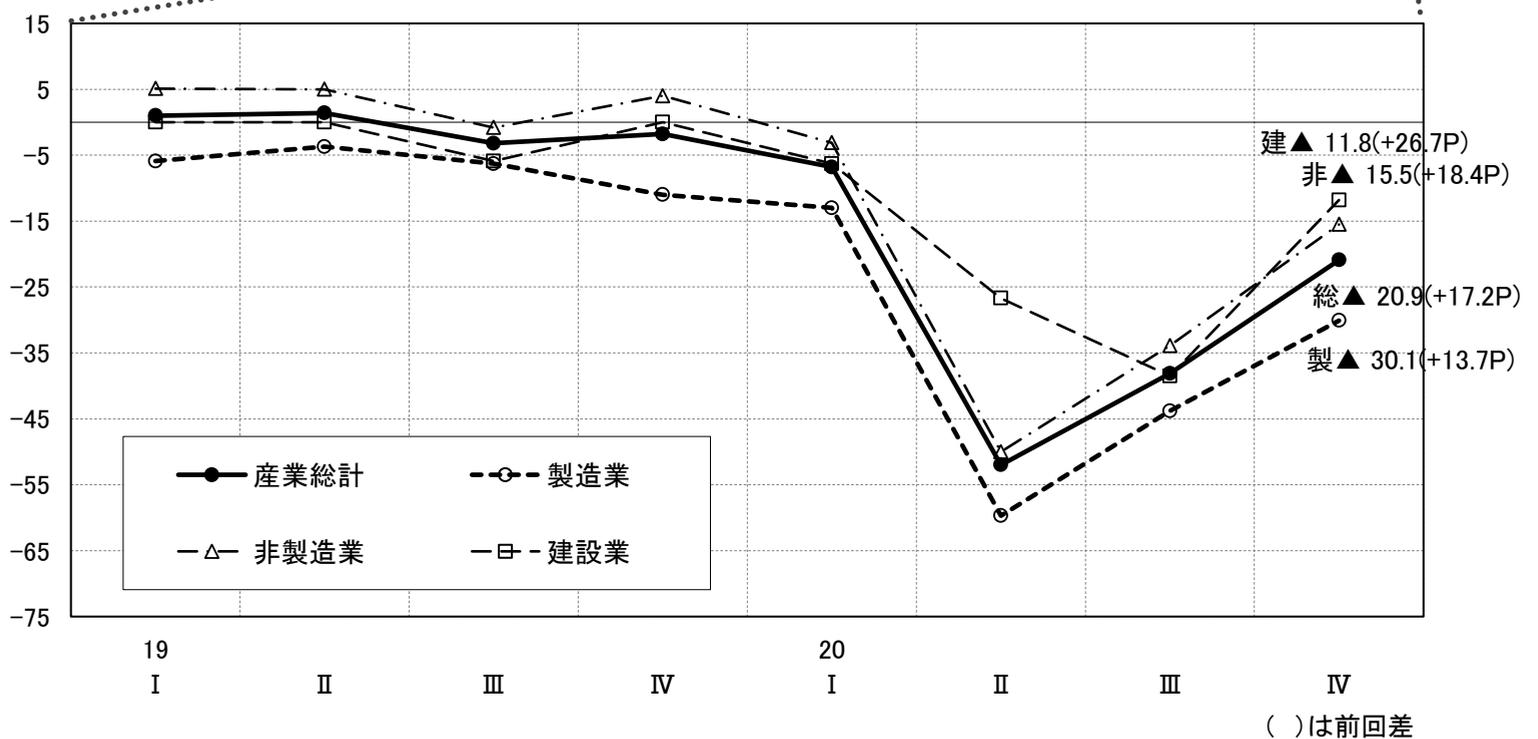
	1:悪い	2:さほど良くない	3:良い	D.I.(良い-悪い)
[9月]	44.3%	51.7%	3.9%	▲ 40.4
[今回]	21.3%	68.7%	10.0%	▲ 11.3

+ 29.1P

(3) 設備投資計画判断 [現況判断(3カ月前と比較して)：「積増し」-「縮小・繰り延べ」]



【最近の動き】



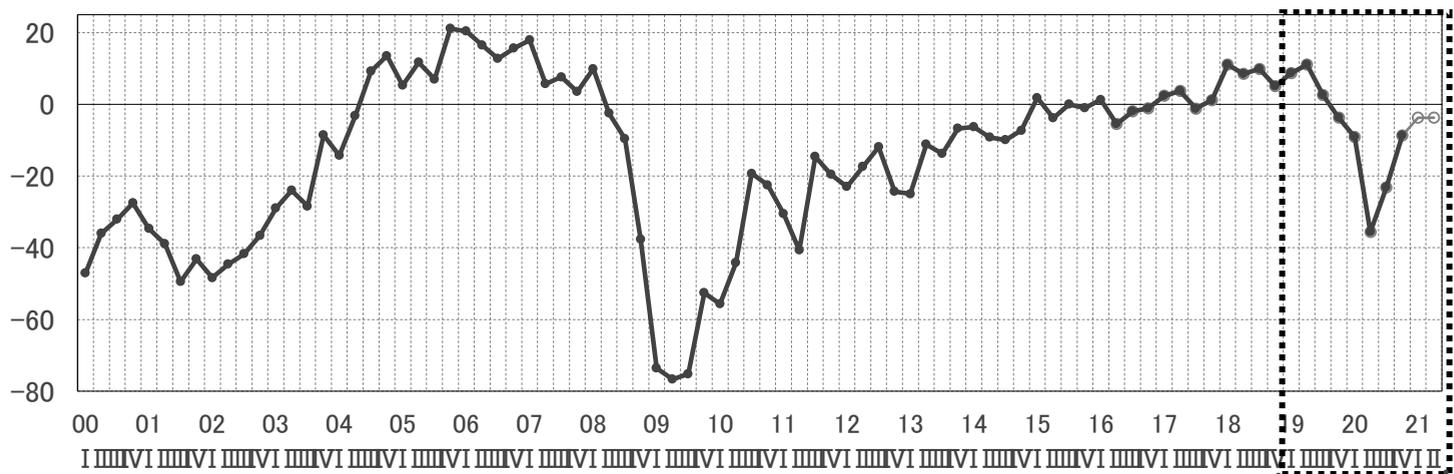
- ▶ 設備投資計画判断は、産業総計で2期連続で改善した。
- ▶ 業種別では、全業種で改善したが、製造業における回復ペースは他業種に比べ、遅れが見られる。

【設備投資計画判断(D. I. )の内訳】

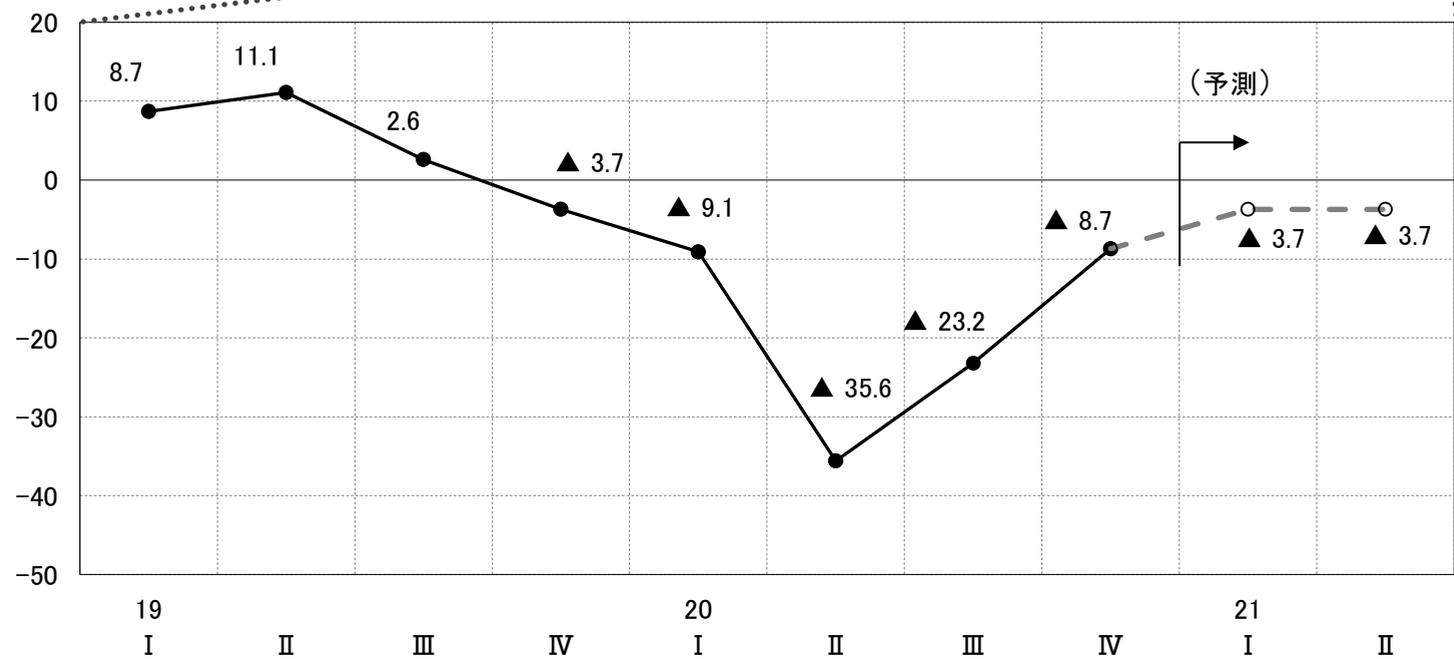
[ 9 月 ]	1 :縮小・繰延べ	2 :変わらず	3 :積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)	+ 17.2P
	41.0%	56.1%	2.9%	▲ 38.1	
[今回]	1 :縮小・繰延べ	2 :変わらず	3 :積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)	←
	25.7%	69.5%	4.8%	▲ 20.9	

(4) 機械設備水準判断 (製造業)

[現況判断・見通し: 「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



[現状] ▶ 機械設備水準判断は2期連続で改善した。

[今後] ▶ 来期は改善するが、再来期は横ばいになるものと見られている。

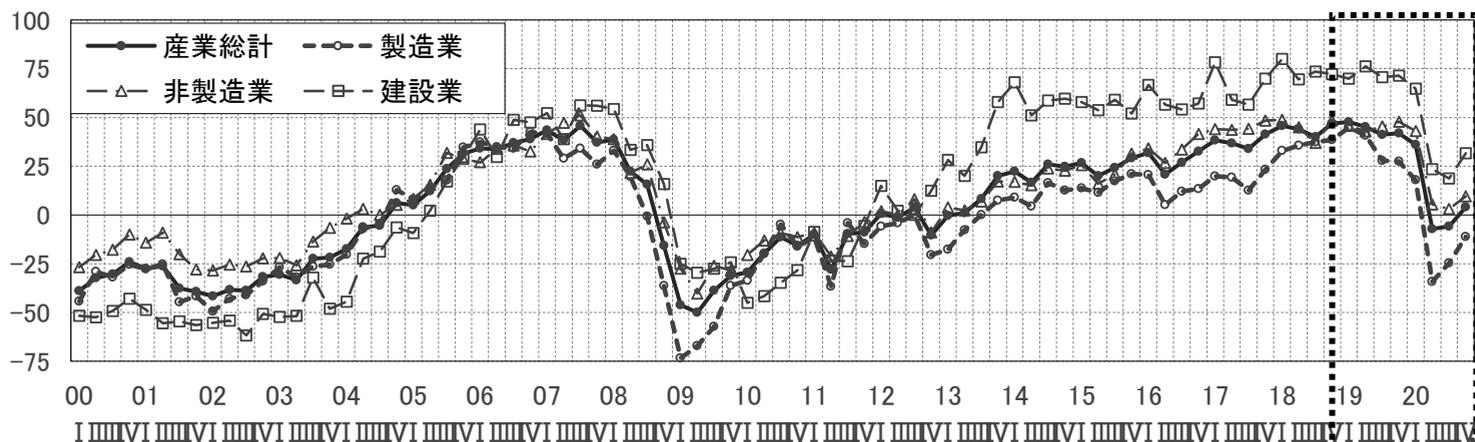
【機械設備水準判断(D. I.)の内訳】

	1 : 過剰	2 : 適正	3 : 不足	D.I.(不足-過剰)
[9月]	30.5%	62.2%	7.3%	▲ 23.2
[今回]	17.3%	74.1%	8.6%	▲ 8.7

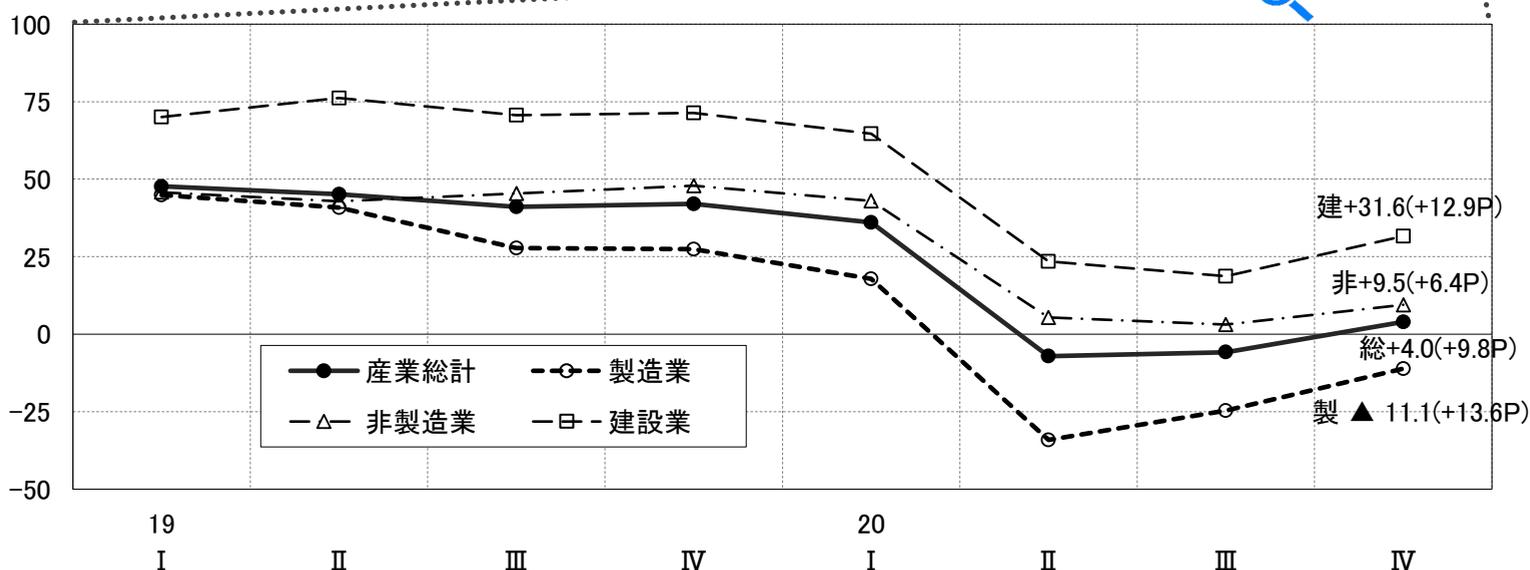
+ 14.5P

(5) 雇用判断

[現況判断:「不足」-「过剩」]



【最近の動き】



( )は前回差

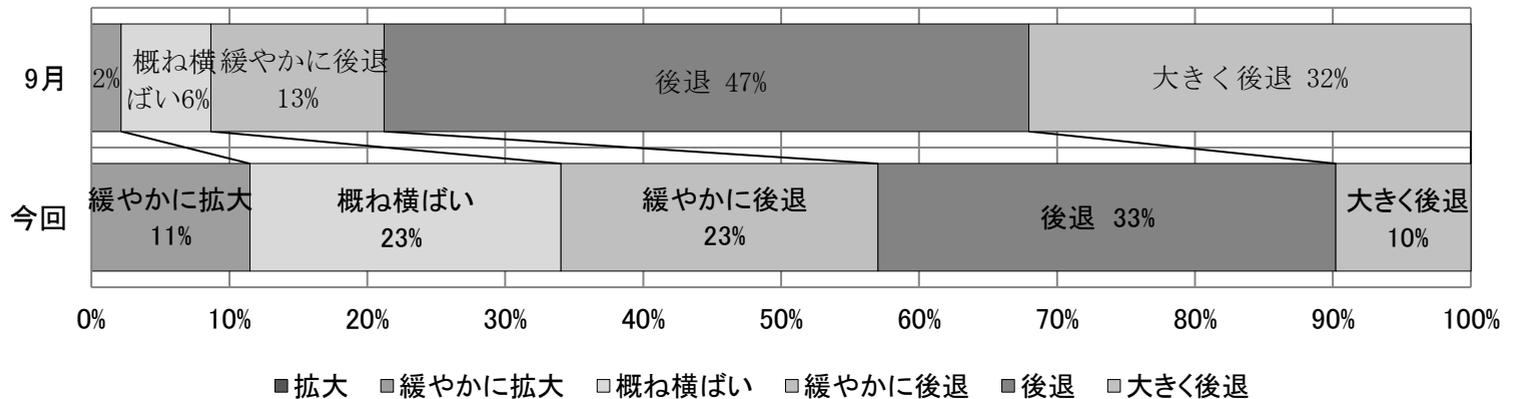
- ▶ 人手不足感は産業総計でわずかに増加した。
- ▶ 業種別では、2018年 I 期以来、約3年ぶりに全産業で同時に人手不足感が増加した。

【雇用判断(D. I.)の内訳】

業種	9月	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I. (不足-过剩)	変化
産業総計	[9月]	20.8%	64.2%	15.0%	▲ 5.8	
	[今回]	13.3%	69.5%	17.3%	▲ 4.0	+ 9.8P
製造業	[9月]	32.1%	60.5%	7.4%	▲ 24.7	
	[今回]	18.5%	74.1%	7.4%	▲ 11.1	+ 13.6P
非製造業	[9月]	15.5%	65.9%	18.6%	3.1	
	[今回]	11.9%	66.7%	21.4%	9.5	+ 6.4P
建設業	[9月]	6.3%	68.8%	25.0%	18.7	
	[今回]	0.0%	68.4%	31.6%	31.6	+ 12.9P

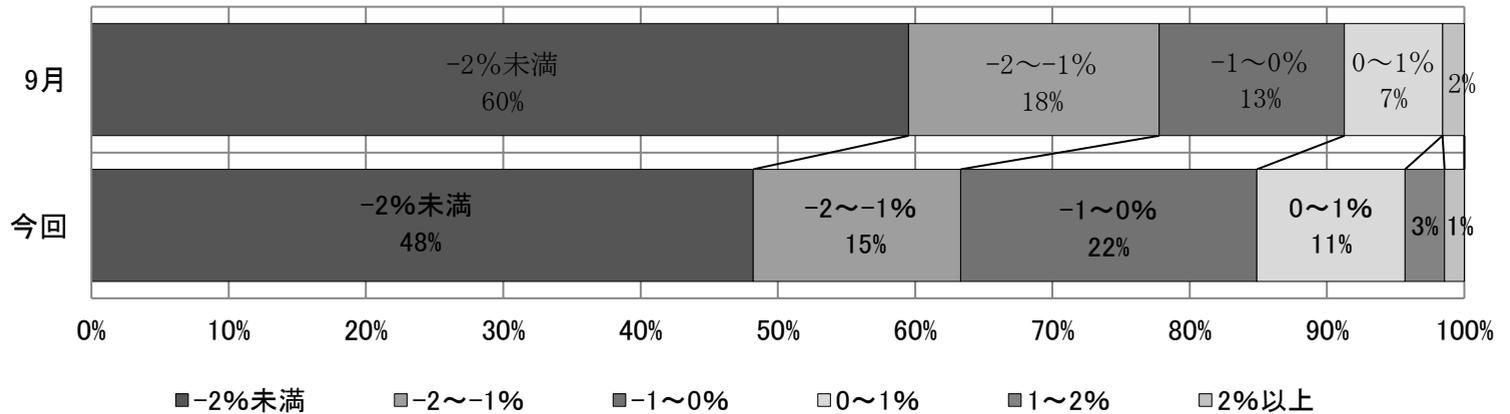
1. 日本経済の現状認識について

(1) 景気の現状について



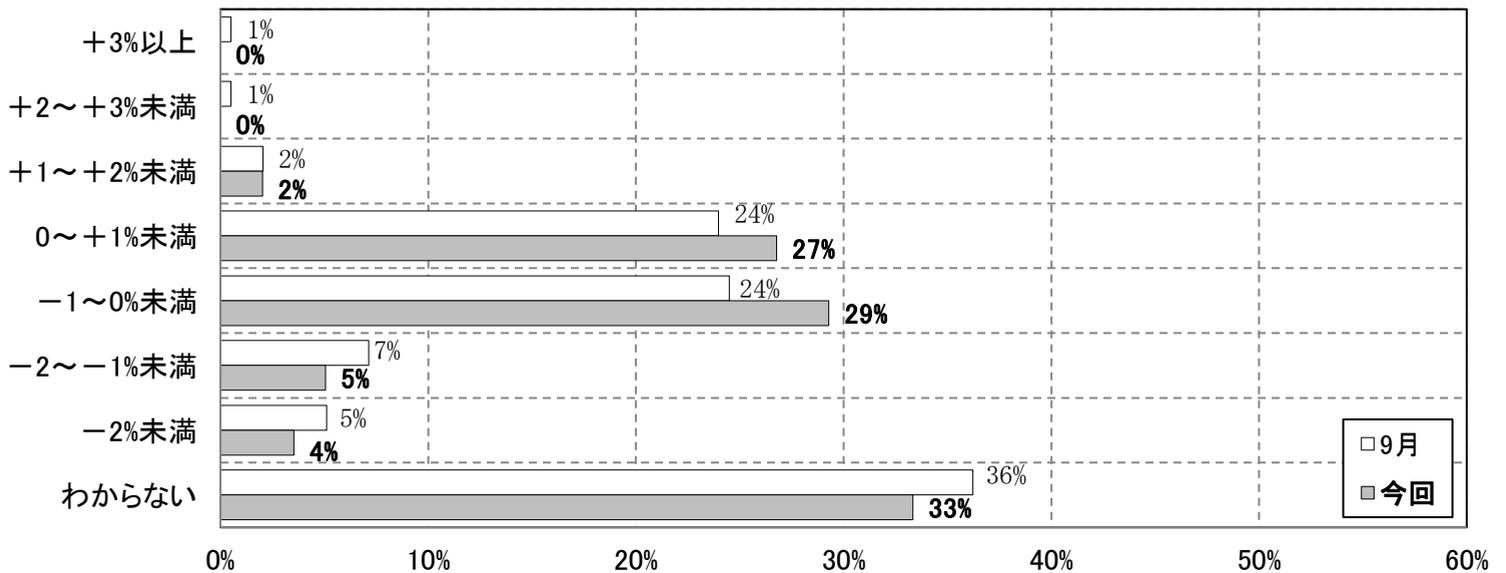
▶ 「大きく後退」、「後退」が減少し、「緩やかに後退」、「概ね横ばい」、「緩やかに拡大」が増加した。

(2) 2020年度の経済成長率（GDP）見通しについて



▶ 経済成長率の見通しは、「-2%未満」のマイナス成長を予測する割合が減少し、「0%」近傍を予測する割合が増加した。

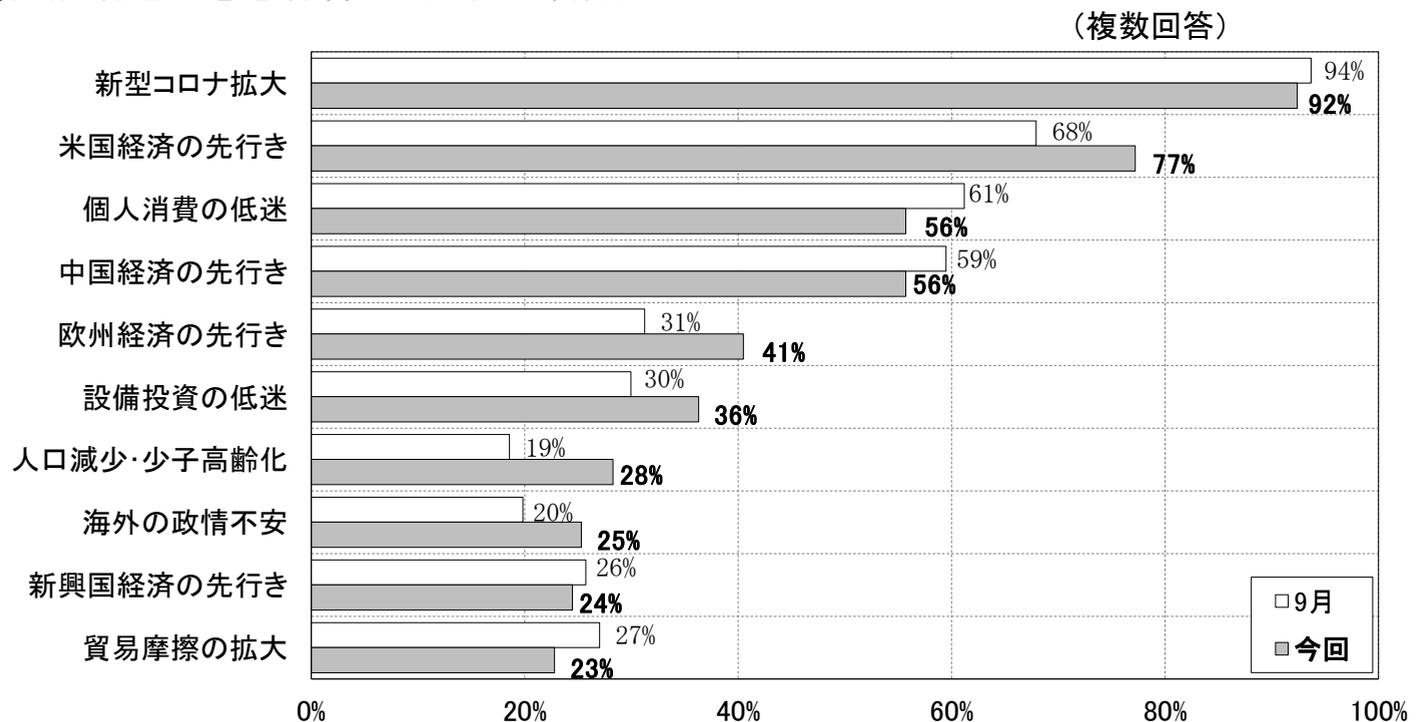
(3) 2020年度末の物価見通しについて



▶ 「-1%未満」の物価上昇率を予想する回答が減少し、「0%」近傍を予想する割合が全体の半数を超えた。

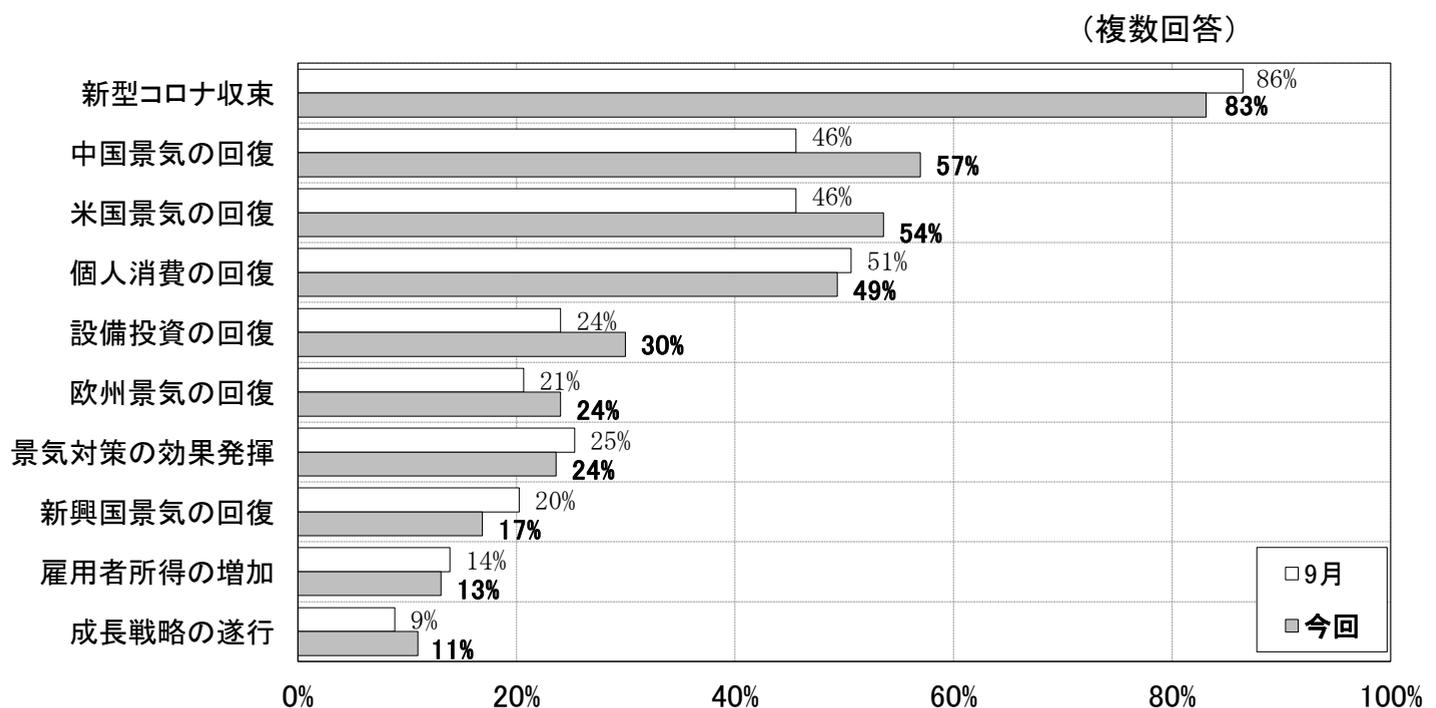
## 2. 景気先行きの懸念材料・期待材料と経済政策への期待について

### (1) 景気先行きの懸念材料 (上位10項目)



- ▶ 「新型コロナ拡大」を懸念する割合が依然として最も多く、次いで「米国経済の先行き」、「個人消費の低迷」、「中国経済の先行き」への懸念が上位を占めた。
- ▶ 米国や欧州で感染が再拡大し、外出制限が再び実施されるなど、今後の経済活動への影響が危惧されており、「米国経済の先行き」、「欧州経済の先行き」への懸念が高まった。

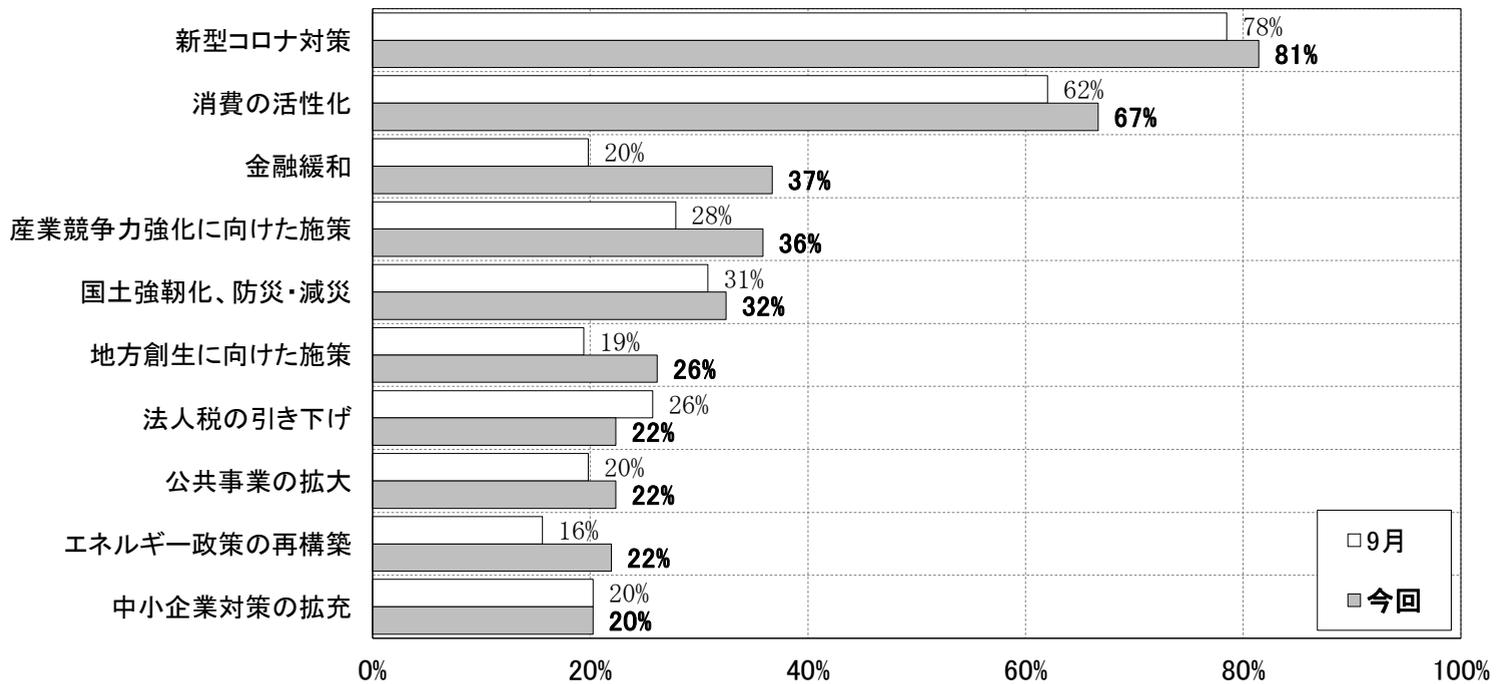
### (2) 景気先行きの期待材料 (上位10項目)



- ▶ 「新型コロナ収束」への期待が最も多く、次いで「中国景気回復」、「米国景気回復」、「個人消費の回復」に対する期待が上位を占めた。
- ▶ なかでも、コロナ禍でわが国の生産や輸出の大きな牽引役となっている「中国景気回復」や「米国景気回復」に期待する企業が増加した。

(3) 今後の経済政策運営等へ期待するものについて (上位10項目)

(複数回答)

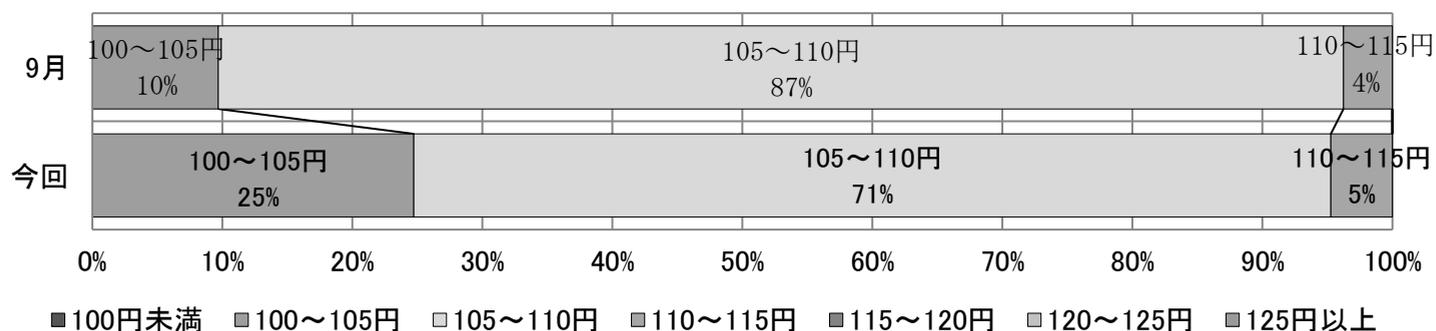


- ▶ 「新型コロナ対策」への期待が最も多く、次いで「消費の活性化」、「金融緩和」、「産業競争力強化に向けた施策」への期待が上位を占めた。
- ▶ とりわけ、新型コロナウイルスに伴う経営環境の悪化や先行きの不透明感から、「金融緩和」の更なる拡大を期待する声が増加した。

フォーカス②

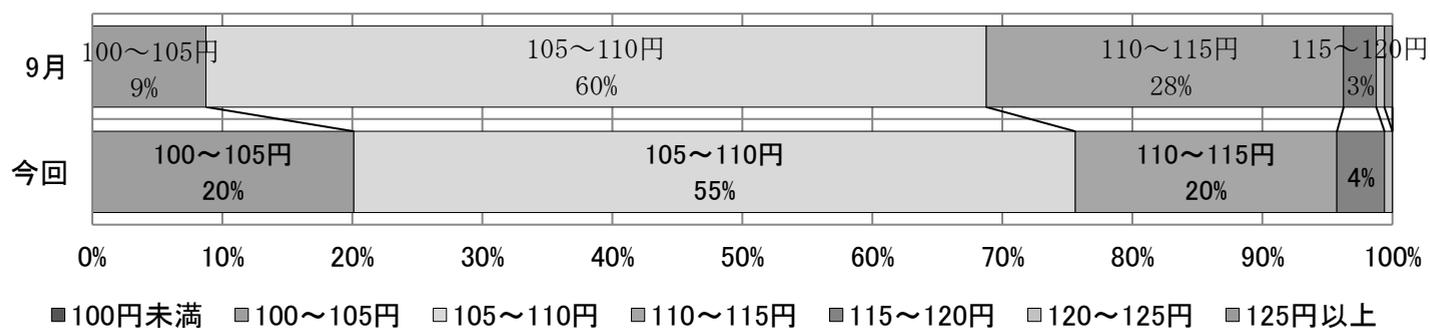
為替レートについて

(1) 2020年度下期の業績予想の前提 対ドル・円レート〔銀行間直物〕



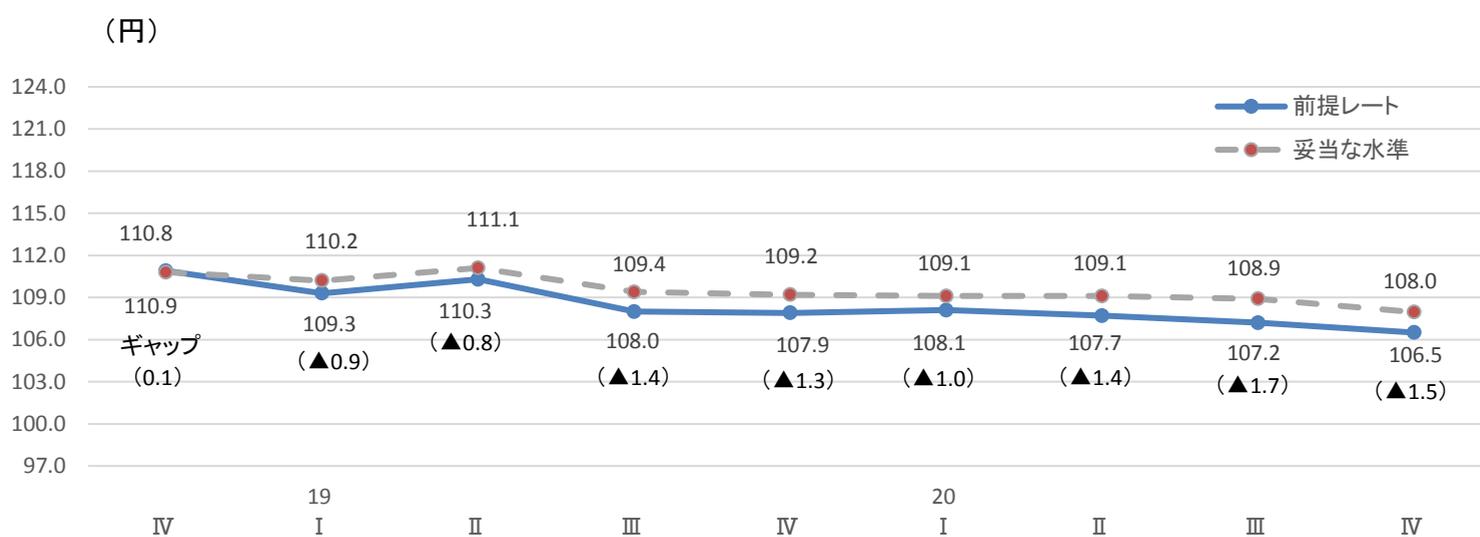
- ▶ 「105円以上110円未満」を前提とする割合が減少し、「100円以上105円未満」を前提とする割合が増加した。

(2) 為替レートの適切な水準 対ドル・円レート



- ▶ 105円以上を妥当とする回答が減少し、「100円以上105円未満」を妥当とする回答が増加した。

(3) 業績予想の前提レートと適切な水準の推移



- ▶ 「業績予想の前提レート」(106.5円)と「適切な水準」(108.0円)は共に円高方向に振れ、ギャップは前期に比べ、わずかに縮小した。

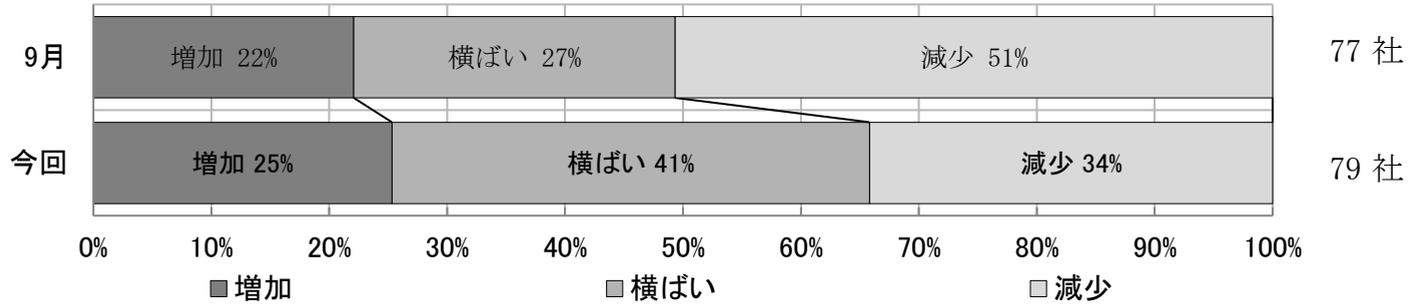
(注) 数値は単純平均値  
 ギャップ( )は「前提レート」-「適切な水準」の値

フォーカス③

輸出の増減について

(1) 貴社の輸出の増減について（輸出を行う企業のみを対象）

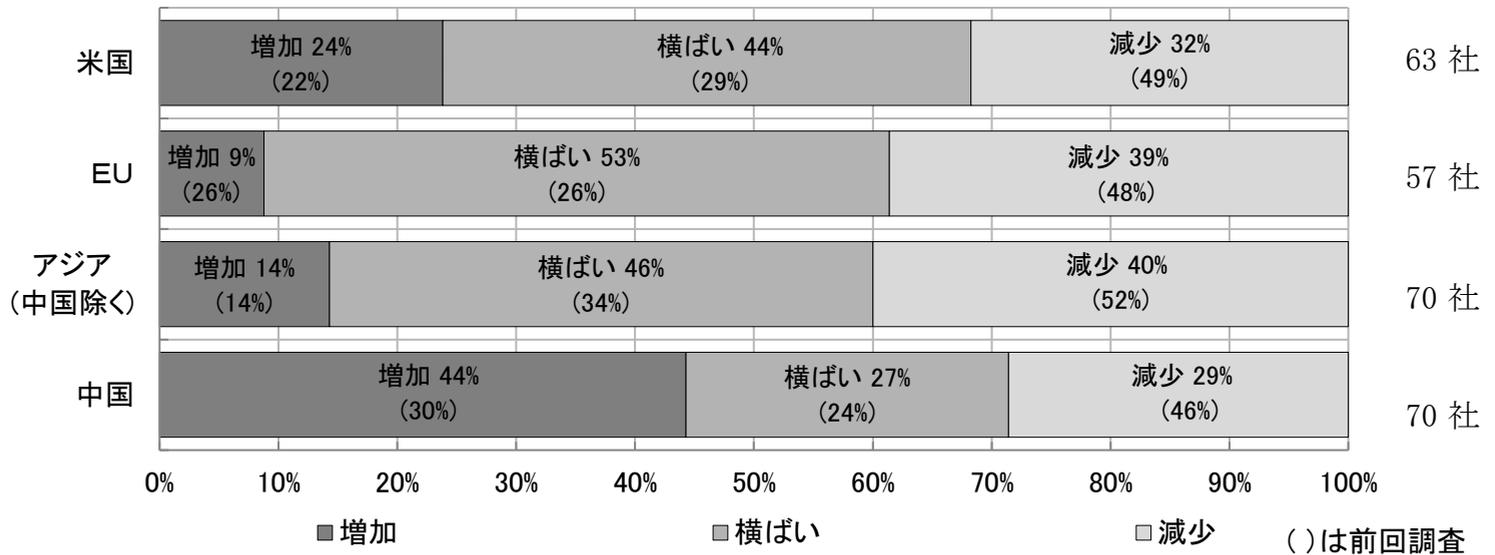
(回答社数)



▶ 前回と比較すると、「減少」の割合が低下し、「横ばい」とする企業の割合が上昇した。

(2) 地域別輸出の増減

(回答社数)

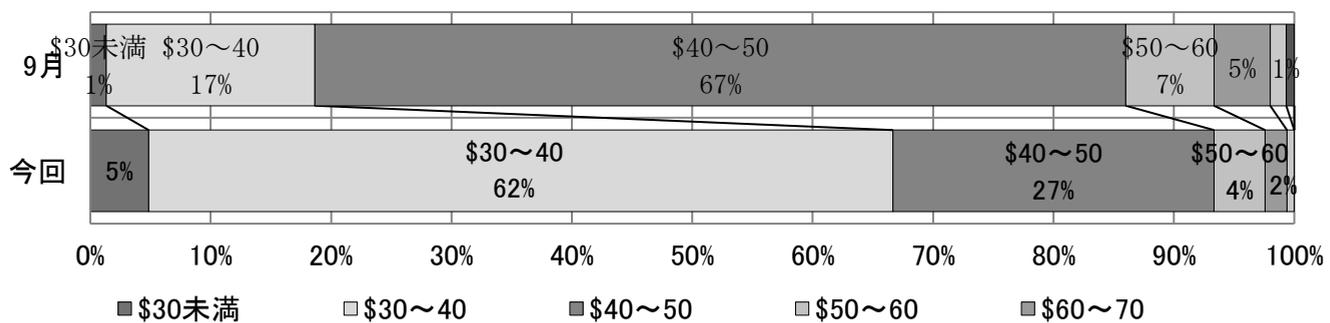


▶ 中国で「増加」が最も多く、その他の地域は「横ばい」が最も多くなった。  
▶ 前回と比較すると、全地域向けで「減少」の割合が低下した。

フォーカス④

原油価格について

(1) 2020年度下期の業績予想の前提 原油価格〔通関（C I F）〕



▶ 業績予想の前提とする原油価格は「\$40～50未満」を前提とする割合が大幅に減少し、「\$30～40未満」を前提とする企業が全体の約6割となった。価格の平均値は前回と比較して下落した。

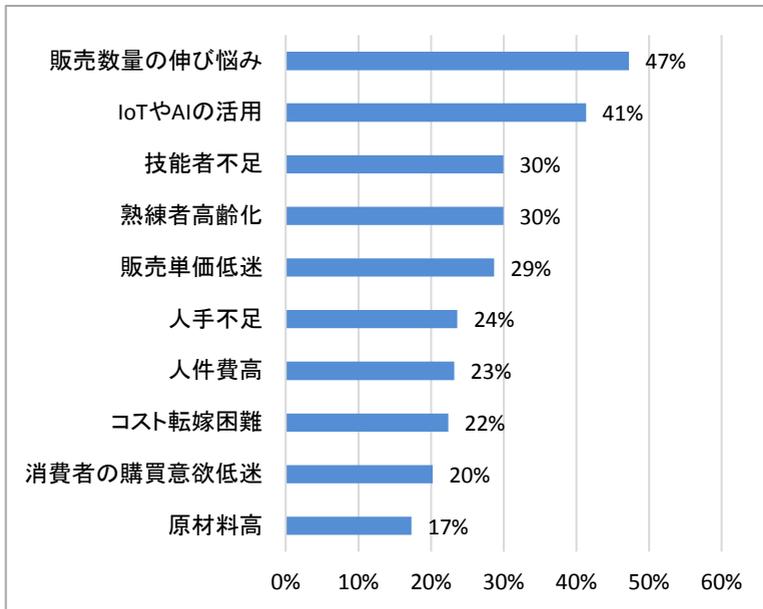
(参考)単純平均値 今回: \$43.8 前回: \$50.1

フォーカス⑤

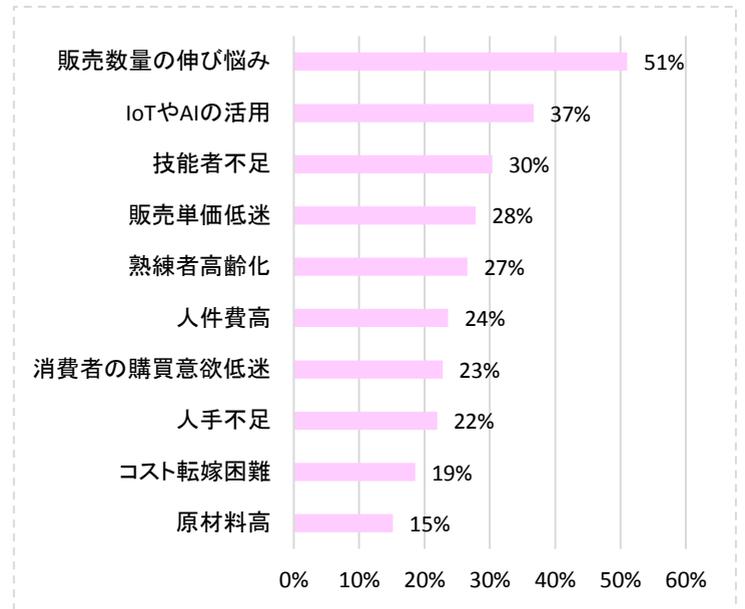
経営上の課題について

(1) 経営上の課題に該当するもの（産業総計 上位10項目）

(複数回答)

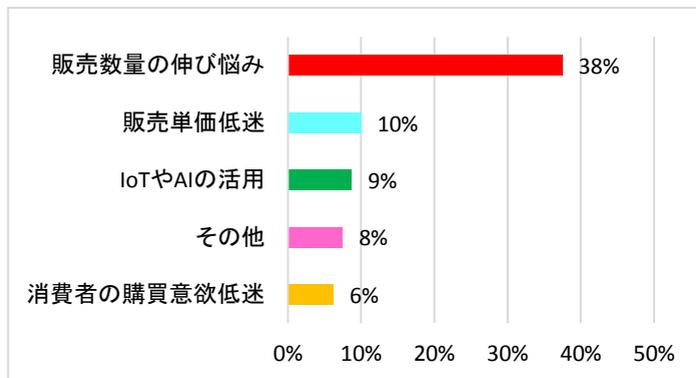


【参考・前回結果】



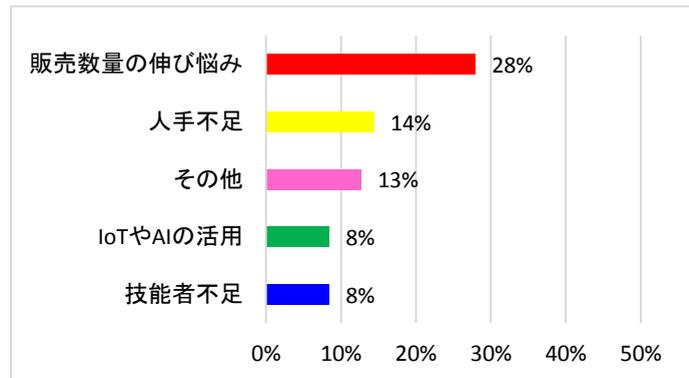
(2) そのうち最も大きな課題（上位5項目）

・製造業



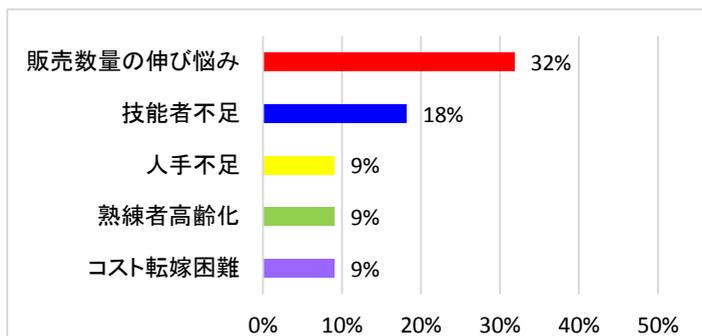
◆その他:コロナ対応、海外でのコロナ感染拡大など

・非製造業



◆その他:優秀な人材の確保、従業員の健康維持など

・建設業



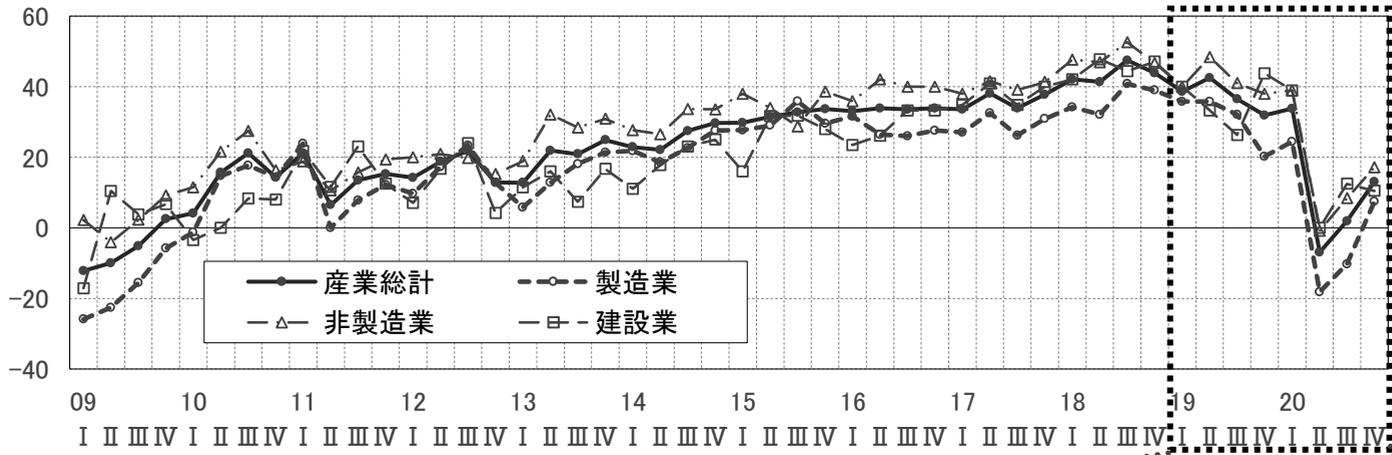
- ▶ 経営上の課題は、上位項目に大きな変化は見られず、産業総計では「販売数量の伸び悩み」、「IoTやAIの活用」、「技能者不足」の順に多い。とりわけ、新型コロナウイルス対策としても注目されている「IoTやAIの活用」への課題感が増加している。
- ▶ 最も大きな課題については、全業種で「販売数量の伸び悩み」となった。
- ▶ また、建設業では最上位課題が初めて雇用関連（「人手不足」や「技能者不足」）以外の項目（「販売数量の伸び悩み」）になり、直近の課題感に大きな変化が窺える。

フォーカス⑥

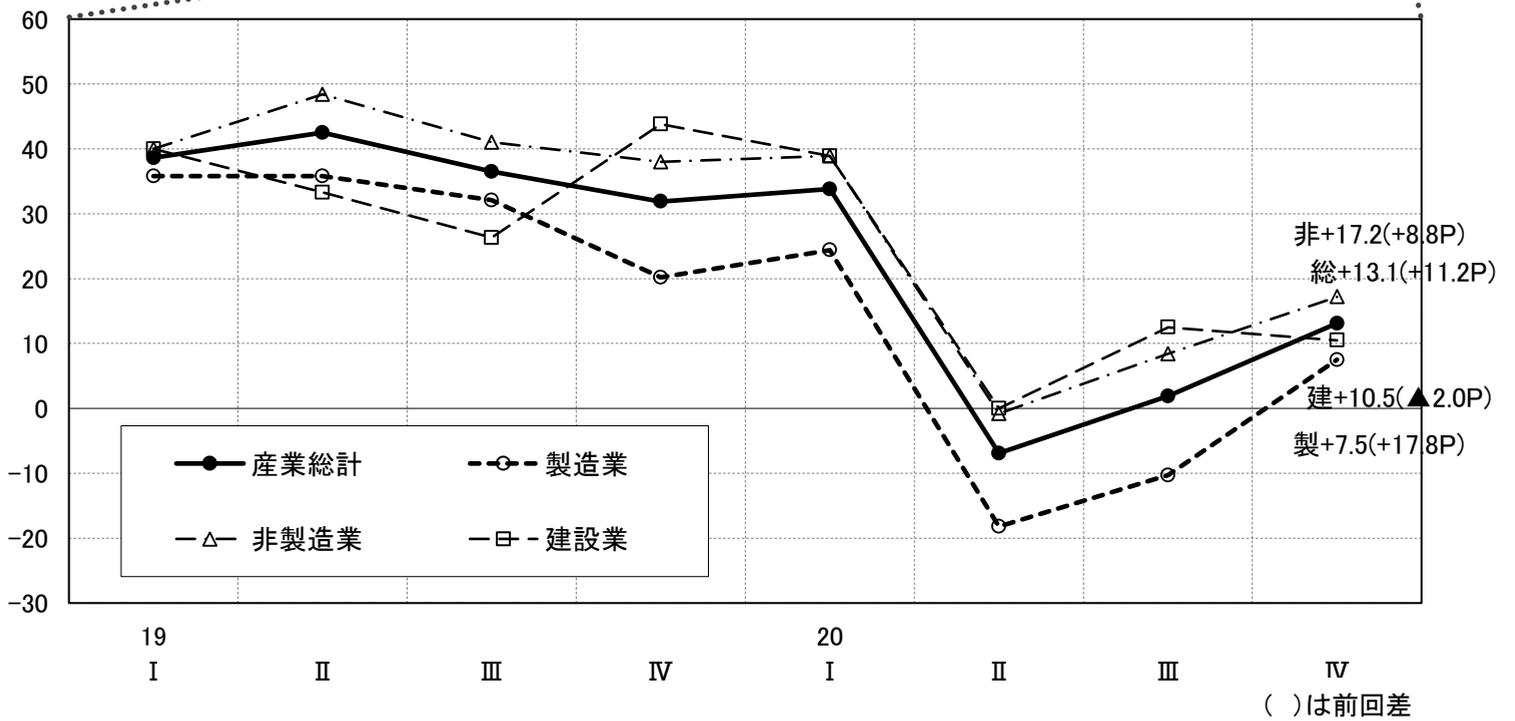
資金繰りについて

資金繰り判断

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



- ▶ 資金繰り判断は、産業総計で2期連続で改善した。
- ▶ 業種別では、製造業、非製造業が2期連続で改善した一方で、建設業は2期ぶりに悪化した。

【資金繰り判断(D. I.)の内訳】

[9月]	1:悪い	2:さほど悪くない	3:良い	D.I.(良い-悪い)	+ 11.2P
	14.6%	68.9%	16.5%	1.9	
[今回]	1:悪い	2:さほど悪くない	3:良い	D.I.(良い-悪い)	←
	8.8%	69.3%	21.9%	13.1	

## <参考①> 企業等の主な声

### 【業種別の声】

#### <輸送機械>

- ・販売、生産とも昨年と比べ大幅な減少が見込まれるが、将来の成長糧である設備投資、研究開発は当初計画通りを予定している。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、回復は緩やかなものになると見込んでいる。

#### <電気機械>

- ・世界的なテレワークの急速な普及により、パソコン向けパッケージ基板の需要が好調。今後の自動車市場の成長の中心となる中国市場のシェア拡大に向け、計画通りに新工場の立ち上げを進める。

#### <工作機械>

- ・市況は国内・海外ともに持ち直す動きが見られるものの、業況改善には及んでいない。一方で、コロナ禍にあってWeb展示会など、デジタル技術を活用した新たな販売活動の展開を始めている。

#### <自動車部品>

- ・地域によってバラつきはあるものの、持ち直しの動きが続いている。研究開発はこの環境下においても、電動化や先進安全・自動運転といった将来に向けた競争領域を中心に加速させる。

#### <食品>

- ・業績は卸売部門は概ね前年並みであるが、小売部門は大変厳しい状況にある。原材料高や値下げ圧力が今後の懸念材料である。

#### <小売>

- ・コロナ禍の中、前期比で来店客数は減少したものの、客単価は巣ごもり需要を取り込み、増加が続いている。百貨店の催事等が中止された受け皿として、高価格帯の業態店舗が好調を維持している。

#### <建設>

- ・国内土木は堅調である一方で、国内建築は設備投資の見直しにより発注時期が延期になるものも発生している。また、海外工事は案件の期ズレや発注活動の制限が続いている。

#### <金属>

- ・自動車販売ならびに生産の回復に伴い、業態別に4-6月、または7-9月を底に徐々に生産量が回復している。10-12月については自動車生産の急回復に伴い、中間在庫積み増しも含めた受注増が鮮明である。

#### <繊維>

- ・中国市場の回復、一部大手アパレルメーカーや自動車関連の回復から全体的には緩やかな回復基調にある。

#### <鉄鋼>

- ・鉄鋼需要は上期をボトムに下期は自動車向けをはじめとした製造業を中心に回復の見通しであるが、コロナ前と比べると低位である。

#### <織物>

- ・一時はガーゼや代替品を製造している企業は繁忙していたが一服し、全体的に厳しい状況にあり、長引く恐れがある。

## 【地域別の声】

### ＜長野県＞

- ・製造業は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、需要は低調に推移しているが自動車関連で持ち直しの動きもあり、景況感は低水準ながら改善傾向にある。非製造業は設備投資需要の減少で建設業や機械関連業で下振れしている。(金融)
- ・家庭用の食品需要は即席みそ汁や加工肉などが堅調。また、業務用需要も国の需要喚起策等により上向くも回復力は弱い。(食品加工)
- ・Go To トラベルの対象に東京が追加されたこともあり、観光需要の持ち直しから宿泊客数は増加している。一方で、感染防止策により客室数を制限しているため、大幅な増加は見込めない。(宿泊・観光)

### ＜岐阜県＞

- ・足元の企業動向調査では、7期ぶりの改善となり、景況感の悪化に一旦歯止めがかかった状況である。(金融)
- ・6月より工場を停止し、雇用調整中であり、先行きが不透明で不安。(繊維)
- ・コロナ終息後も世界経済への影響は大きく、立ち直るまでには時間がかかる。(窯業・土石)

### ＜静岡県＞

- ・企業活動の再開や県を跨ぐ移動自粛の緩和等を受け、一部では生産・消費活動が持ち直しているため、7～9月期と比べれば景況感は改善したが、総じてみれば依然として厳しさが残る。(金融)
- ・一部自動車メーカーの受注が回復したことで、足元の売上高が前年実績を+10%程度上回って推移している下請企業もみられる。(輸送機械)
- ・Go To トラベルの対象地域に東京が加わり、高級旅館や小規模旅館では年末年始までの予約増加に拍車がかかった。大型旅館については、厳しさが残るものの、同キャンペーンの効果で集客が回復しつつある先も一部発生している。(宿泊・観光)

### ＜愛知県＞

- ・主力産業である輸送機械は鉱工業生産指数や輸出額において前年をやや上回る水準で回復している。一方で、工作機械は生産・輸出ともにいまだ厳しい状況が継続している。
- ・また、コロナ対応として手元資金を確保したい企業への資金支援は一巡し、一旦の落ち着きが見られる状況にある。融資対象はコロナ禍の影響を受けた飲食・観光・旅行業のほか、自動車セクターを中心とした製造業においても先行き不透明感から増加し、融資増加率(前年比)は全国を大きく上回った。(金融)

### ＜三重県＞

- ・新型コロナウイルスの影響により、総じて厳しい水準にあるものの、持ち直しの動きが広がっている。具体的には、個人消費は一部で持ち直し、生産・輸出ともに厳しいながら持ち直しの動きがみられる。一方で、雇用は弱い動きとなっている。
- ・7月に実施した調査では「販売元・販売方法・販売開拓について見直しを行った」と回答した企業が三重県企業で約3割存在し、事業モデルの変化の必要性を認識している事業者による新しい価値創造が期待される。(金融)

<参考②> 時系列データ

		2019年	2020年			
		IV (10-12月)	I (1-3月)	II (4-6月)	III (7-9月)	IV (10-12月)
中部圏の景況感						
景況判断(D. I.)		10.2	-5.8	-82.6	-61.7	-34.2
業績判断(D. I.)	産業総計	8.0	-0.5	-52.8	-40.4	-11.3
	製造業	1.1	-16.5	-70.0	-48.8	-9.5
	非製造業	12.3	6.5	-51.1	-41.1	-14.3
	建設業	5.8	15.8	11.1	5.9	0.0
設備投資計画判断(D. I.)	産業総計	-1.8	-6.8	-52.0	-38.1	-20.9
	製造業	-11.0	-13.0	-59.7	-43.8	-30.1
	非製造業	4.0	-3.1	-50.0	-33.9	-15.5
	建設業	0.0	-6.3	-26.7	-38.5	-11.8
機械設備水準判断(D. I.)		-3.7	-9.1	-35.6	-23.2	-8.7
雇用判断(D. I.)	産業総計	42.0	36.1	-7.1	-5.8	4.0
	製造業	27.4	17.9	-34.1	-24.7	-11.1
	非製造業	47.9	43.0	5.4	3.1	9.5
	建設業	71.4	64.7	23.5	18.7	31.6
景気の現状とGDP見通し(フォーカス①)						
景気の現状	拡大	0%	0%	0%	0%	0%
	緩やかに拡大	12%	11%	0%	2%	11%
	概ね横ばい	58%	47%	2%	6%	23%
	緩やかに後退	27%	35%	6%	13%	23%
	後退	4%	7%	40%	47%	33%
	大きく後退	0%	0%	53%	32%	10%
	GDP見通し	-2%未満	3%	2%	45%	60%
	-2%~-1%未満	3%	2%	18%	18%	15%
	-1%~0%未満	6%	12%	19%	13%	22%
	0%~1%未満	67%	62%	15%	7%	11%
	1%~2%未満	21%	20%	2%	0%	3%
	2%以上	1%	1%	0%	2%	1%
為替レート(フォーカス②)						
業績予想の前提(対ドル・円レート)						
	95~100円未満(2016年Ⅱ期から100円未満)	0%	0%	0%	0%	0%
	100~105円未満	4%	4%	10%	10%	25%
	105~110円未満	83%	80%	78%	87%	71%
	110~115円未満	12%	16%	9%	4%	5%
	115~120円未満	0%	0%	2%	0%	0%
	120~125円未満	0%	0%	0%	0%	0%
	125~130円未満(2016年Ⅱ期から125円以上)	0%	0%	0%	0%	0%
	130円以上	-	-	-	-	-
想定レートと妥当な水準(単純平均値 円/\$)						
	想定レート	107.9	108.1	107.7	107.2	106.5
	妥当な水準	109.2	109.1	109.1	108.9	108.0
輸出の増減(フォーカス③)						
輸出の増減	増加	9%	2%	3%	22%	25%
	横ばい	70%	71%	19%	27%	41%
	減少	20%	27%	78%	51%	34%
米国	増加	13%	7%	3%	22%	24%
	横ばい	73%	73%	12%	29%	44%
	減少	13%	19%	85%	49%	32%
EU	増加	11%	6%	0%	26%	9%
	横ばい	69%	74%	14%	26%	53%
	減少	20%	21%	86%	48%	39%
アジア(除く中国)	増加	13%	9%	0%	14%	14%
	横ばい	64%	64%	16%	34%	46%
	減少	24%	26%	84%	52%	40%
中国	増加	10%	4%	7%	30%	44%
	横ばい	55%	49%	23%	24%	27%
	減少	35%	47%	70%	46%	29%